

筑豊小児科医会会報

Vol.191 2022.12



Contents

- ◇ 今月のトピックス
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2022年9月》
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ 専攻医のご紹介
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス（小児科 外来医長 大矢崇志）

日頃よりお世話になっております。

今月は小児センターの小児科部門で行っている「一般小児科医が行う神経発達症の初診外来（神経発達症トリアージ）」をご紹介します。この取り組みは、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症、学習障害など、増え続ける神経発達症への初期対応を一般小児科医が行う取り組みで、2021年の4月から始めました。神経発達症の診療では、薬物療法が必要なケースや心理士の介入が必要なケース、福祉、教育、医療などの関係者間の協議が必要なケースのように医療の必要度が高いものから、子どもの特性を知って対応を工夫し、環境調整することで課題が解決する医療の必要度が低いものまで、さまざまな重症度の子どもたちが全て一ヶ所に集まることが問題となっていました。そのトリアージを目的としてこの取り組みを始めましたが、経験を重ねることで診療もスムーズになり十分な対応が出来るようになったと評価しています。また、神経発達症の専門外来ではより重症なケースへの余裕のある診療が可能となりました。



小児センタースタッフ

この取り組みを始めるにあたっては、医師以外の看護師、心理士、ソーシャルワーカー、医療クラーク、医療秘書、企画管理課など多職種のスタッフで話し合いを繰り返し、フローシートを作成し、運用を行っています。当院の小児センターには多職種がスムーズに連携し、協力し合える環境があり、そこが一番の長所であり宝だと自負しています。「三人寄れば文殊の知恵」、患者さんのことでお困りなことがありましたら、なんでもご相談ください。なんとかします。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2022年9月》

●入院患者数 83人 ●外来患者数 1,085人 ●救命救急センター受診者数 251人

●新生児センター入院患者数 17人 ●分娩件数 35件 ●手術件数 7件

●主要疾患数（退院患者数：67人）

痙攣及びてんかん	10	低出生体重児	9	新生児呼吸障害・心血管障害	8
急性上気道感染症	5	肺炎・気管支炎	5	急性胃腸炎	3
高ビリルビン血症及び黄疸	1	その他	26		

●9月紹介件数

児科：88件			小児外科：13件		
①	栗原小児科内科クリニック	5	①	尾上小児科医院	2
	雪竹医院			くわの内科・小児科医院	
③	田中クリニック	4	③	有松病院	1
	たなかのぶ小児科			飯塚急患センター	
	津川診療所			飯塚市役所 子育て支援課 母子保健係	
	松尾ファミリークリニック			穎田病院	
	吉國医院			栗原小児科内科クリニック 他4件	

小児科関連勉強会のご案内

■ 第 342 回 筑豊小児科医会勉強会（筑豊感染症懇話会）

●日 時：2022 年 12 月 22 日（木）18：30～19：30

●形 式：Web（Zoom）配信

➡ 講演 I 「 COVID-19 との共存に向けた課題～インフルエンザ同時流行など～ 」

飯塚病院 感染症科 部長 的野多加志先生

➡ 講演 II 「帯状疱疹の病態と治療～神経障害性疼痛治療含め～」

飯塚病院 皮膚科 部長 井手豪俊先生

*事前申込が必要です。詳細につきましては案内状をご確認ください。

■ 第 343 回 筑豊小児科医会勉強会

●日 時：2023 年 1 月 18 日（水）18：30～

専攻医のご紹介

● 総合診療科 専攻医 1 年目 にしどまりしょう た 西泊 翔太

飯塚・穎田総合診療専門研修プログラム専攻医 1 年目の西泊翔太と申します。

2022 年 12 月下旬から 3 ヶ月間小児科で研修を行わせていただきます。

これまでは成人診療が主であり、小児診療はまだ不慣れな部分が多い状態ですが、この機会に知識と技術を習得したいと考えております。

ご迷惑をおかけしますこともあるかもしれませんが、何卒御指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



AI-CAP 通信

人権週間にちなんで

20世紀に引き起こされた世界大戦の反省を踏まえ、昭和23（1948）年に世界人権宣言が採択されました。わが国では、人権デーを最終日とする一週間（12月4日から12月10日）を「人権週間」と定めています。法務省や関係団体が協力して、社会全体の人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうために、様々な活動を行っています。

人権啓発キャッチコピー

「誰か」のこと じゃない。

今なお、いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障がい等を理由とする偏見や差別、ハンセン病問題など、様々な人権問題が存在しています。これらの問題を解決し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる「誰一人取り残さない」社会を実現するには、私たち一人一人が人権尊重の重要性を認識し、人権に配慮した行動を取ることが大切ではないでしょうか。

この機会に、人権について改めて考えてみませんか？

- **みんなの人権110番** ☎ 0570-003-110
- **子どもの人権110番** ☎ 0120-007-110
- **女性の人権ホットライン** ☎ 0570-070-810

法務省
人権啓発動画



小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-28

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

11月は児童虐待防止推進月間でした。雲ひとつない小春日和、私は児童相談所主催の講演会で、にじいろCAP代表理事の重永侑紀さんの講演「子どもの権利とまちづくり」を聴きました。にじいろCAPは独自の教育プログラムを用いて様々な年代を対象にワークショップを開催し、子どもの権利を守り、子どもの心と命を守る地域づくりを目指すNPO法人です。講演では1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」を元に子どもの権利について学びました（図参照）。来年4月交付の子ども基本法もこの条約が元になっており、改めて学ぶことができ有意義でした。特に子どもの発達段階に応じた「意見表明権」について詳しく学びました。子どもが自分のことについて自由に意見を表すことができる権利です。この権利を守るために、大人は話すまでを支援する「意見形成支援」と、伝えることを支援する「意見表明支援」を行わなければなりません。要はゆっくり話を聴いて、意見を話せる環境を作りなさいということです。年齢が幼ければ幼いほど、立場が弱ければ弱いほど、子どもの意見は蔑ろにされがちです。私も十分に注意をしなければなりません。

「窓ぎわのトットちゃん」にこんな話が載っています。トットちゃんが小学校を追い出され、新しい学校に転校した時、校長先生に「さあ、なんでも先生に話してごらん、話したいこと全部」と言われます。電車、ツバメの巣、犬のロッキー etc.、四時間（！！）かけて全部話した後、校長先生は「これで君はこの学校の生徒だよ」と言います。私はここで涙腺が崩壊しますが、トットちゃんは生まれて初めて本当に好きな人に逢ったような気がします。なぜなら、『生まれてから今日までこんな長い時間自分の話を聞いてくれた人はいなかったんだもの。そして、その長い時間のあいだ、一度だってあくびをしたり、退屈そうにしないで、トットちゃんが話してるのと同じように、身を乗り出して、一生懸命、聞いてくれたんだもの』。こんな素敵な人になりたいですね。

4つの原則

- **生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）**
 - すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。
- **子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）**
 - 子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。
- **子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）**
 - 子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。
- **差別の禁止（差別のないこと）**
 - すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。



4つの権利

- **生きる権利**
 - 住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること。
- **育つ権利**
 - 勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること。
- **守られる権利**
 - 紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られること。
- **参加する権利**
 - 自由に意見を表したり、団体を作ったりできること。

https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html

図：『子どもの権利条約』

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

